

星野基継さんは、袖ヶ浦市岩井でイチゴやトマト、ナバナなどを作るかたわら、30代以上続く歴史ある神社の神主もしています。

29歳の時にパイプハウスを建て、本格的に就農しました。近所に先輩農家がいって栽培技術等を教わることでできるため、イチゴを作ることに決めました。

実際にイチゴを作り始めてからは、美味しいものを作ることを心がけるようになりました。栽培品種は、味が良い「とちおとめ」を選び、子供たちが生で食べて美味しいイチゴを目指して栽培技術の研鑽に励んでいます。お客様から「このイチゴを食べたら、他のイチゴは食べられないね」と言われることが、星野さんの力になっています。

そんな星野さんが心がけている「美味しいものを作る」という願いは、豊作を祈願する祝詞にも込められており、

神社の仕事と農業のつながりを深く感じています。今後はイチゴとトマトの安定した生産に加え、小さいお子様がいらっしゃる御家庭へのPRにも力を入れたいと考えています。また、今は小さなお手伝いさんですが、将来、息子さんたちにとって、農業が魅力ある職業になるように日々、最善を尽くしています。

美味しさを追求した星野さんの「とちおとめ」は、ハウス横の直売所で販売しています。(菅原)



## 美味しいイチゴを作ることを追求して

ほしのもと つく  
星野 基継さん  
袖ヶ浦市岩井

スーム  
アツブ  
アグリ

## 矢那園芸研究会

～活力のある農村づくりを目指して～

木更津市の南、鎌足・波岡地域では農業経営者で組織する「矢那園芸研究会」が活発な活動を行っています。

この組織は昭和49年に設立され、現在の会員数は12名です。主な活動は毎月の定例会での情報交換や、お互いの経営を学習し合う互評会の開催、新しい情報をもとにした視察研修活動、地元J.Aの農畜産物収穫祭への参加などです。農産物直売マップや農産物カレンダーによる地域紹介も行っています。(http://www.ja-kisarazu.or.jp/yana.pdf)

農畜産物収穫祭では、毎年会員がそれぞれ自分たちで作った農産物を持ち寄って、「野菜宝船」を作り、会場で展示しています。野菜宝船の農産物は市内の老人福祉施設に贈られています。そんな地域貢献活動が評価され、平成24年11月3日に木更津市制施行70周年記念式典において、木更津市が

ら民生功労者として表彰を受けました。



野菜宝船

研究会では、農業を取り巻く環境が日々変化している中、地域の力で活力のある農村をつくれるよう、積極的な活動を行っています。(塚本)



矢那園芸研究会メンバー